第６学年１組　道徳学習指導案
命 の か が や き
「この命のかがやきを」３－（２）生命尊重　（出典：光村図書）

指導者　東広島市立三ツ城小学校　榎並　愛子

１　道徳の時間の展開にあたって

本時のねらい

「『命がかがやいている時』というのは，人間のどのような姿の時をいうのか」について自分なりの考えをもたせることで，これからの一日一日を精一杯生きようとする心情を育てる。

主題設定の理由

○「死」という厳粛な現実に直面することが少なくなり，生命を粗末にする言動が増えたと言われる今日，世の中では生命を軽視した事件が後を絶たない。そのような中で，子どもたち一人一人に「生命はかけがえのないものである」ことを自覚させるためには
①自分の生命は与えられた命であり，多くのものに支えられて生きている。
②自分は，他の人々や他の生物の生命を支えることができる存在である。
③限りある生命だからこそ，自分の人生を精一杯生きることが大切である。
④誰もが，どんな時も幸せに生きたいと願っている。
⑤生命は受け継がれていく。
ということに，改めて気づかせる必要があると考える。
本時では特に③について深めていく。資料の主人公の姿の中に「生命の輝き」を見つけたり，子どもたち自身の12（11）年間の人生を振り返って「自分が輝いたとき」のことを思い出したりすることを通して，これからの一日一日を精一杯生きようとする心情を育てたいと願い，本主題を設定した。

○本資料は，重い心臓病を患っていた柳橋佐江子さんが，その手術の前日にお母さんに渡した手紙である。手紙からは，あふれんばかりのお母さんへの感謝の気持ちや，佐江子さんの前向きな生き方が伝わり，佐江子さんの「命の輝き」を感じ取ることができる。佐江子さんは手紙を渡した翌日に亡くなった。14歳での「死」という事実が，子どもたちに「命には限りがある」ということを気づかせると同時に，「だからどう生きるべきなのか」について考えるきっかけを与えてくれるものと考える。

具体的な手だて

［事前に］
○「生命」に対する感性を高めるために
・教師が『生命を見る』という言葉を提示し，心のノートの写真や挿絵を活用しながら，その中にどのような「生命」が見えるかを考えさせ，意見交流をしておく。
・子どもたちの考えを掲示することで，多様な考えに触れさせる。

［本時で］
○佐江子さんが，14年間の自分の人生を，生命を輝かせて精一杯生きたことに気づかせるために
・佐江子さんの手紙から，どのような気持ちが伝わったかを意見交流させる際には，佐江子さんの気持ちを整理して板書したり，場面の挿絵を活用したりすることで，佐江子さんが，お母さんや友だちに支えられて精一杯生きたことをとらえさせる。
・意見交流したことや板書をもとに，佐江子さんが「自分は幸せだ」と言い切れるのはなぜかを考えさせる。
○子どもたち一人一人に，「生命がかがやく時」とはどのような姿の時のことをいうのかについて自分の考えをもたせるために
・心のノートP65を事前に記入させておく。
・佐江子さんの生き方と発表とを関連づけることで「生命がかがやいている時」とは，人間が精一杯頑張っている姿の時だということが実感できるようにする。
○これからの一日一日を精一杯生きようとする心情を育てるために
・「年齢のものさし」を伸ばすことで自分のこれからの人生について考えるきっかけと期待感を持たせる。
・感想をワークシートに書かせる。

本時と国語科との関わり・子どもの姿

児童は，国語科「海のいのち」や立松和平さんのいのちのシリーズから，生命そのものの力強さや，人間の生命は，そのほかの生き物の生命によって支えられているということを学んだ。学習後の感想では，これまで生命について考えたことがほとんどなかったが，改めて考えるようになったと述べた児童が多かった。児童に行ったアンケートで，「自分にとって大切なものを失ったことがあるか」という問いに対して，「転校や学校分離による友だちとの別れ」が10名，「ペットの死」が11名，「身近な人の死」が６名，「ない」が７名という結果であった。「どのようなとき自分は生きていると感じるか」という問いに対しては，息をしている・体が温かいというような答えが多かったが，喜怒哀楽があるとき・友だちと一緒にいるとき・汗を流して頑張ったときなどのように，「命がかがやいている姿」につながるような意見もあった。「自分の生き方について考えたことがない」児童は約半数おり，「自分の命にも限りがある」とか「自分自身が生命をかがやかせて生きる」という意識は，まだあまり芽生えていないと考える。

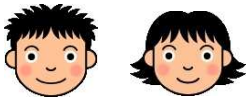
2　国語科と道徳との関連

「○○のいのち」～立松和平さんからのメッセージを受け取ろう～

パートⅠ　立松和平さんの作品に出会おう
「海のいのち」
「山のいのち」
「川のいのち」
「田んぼのいのち」
「街のいのち」

パートⅡ　「海のいのち」の主題を読み取ろう

人間は，海からたくさんの命をもらって生きているんだね。海のいのちに生かされているんだね。



捕れるだけ捕ったら海のいのちはなくなってしまうよ。必要なだけ捕ることが海を守るために大切なんだね。

パートⅢ　立松和平さんからのメッセージを紹介し合おう

山のいのちは，ぐるぐる回っていて，何一つ無駄がないんだね。人間も山からいのちをもらっているよ。いのちってつながっているね。

稲のいのちってとても力強いね。米をつくる人は一粒の籾から，たくさんのいのちを育てるんだね。いのちを育てるってすごいよ。

川で遊んで友情を深めて…とてもきれいな川なんだな。みんなを生き生きさせる，いのちいっぱいの川なんだ。

コンクリートの街のなかにも時間の流れと共に芽を出す自然があるんだね。どんなにつらいことがあっても，時間やいのちたちが元気をくれるんだね。

人間は生きているとばっかり思っていたけど，たくさんのいのちに生かされていたんだね。人間が自分たちのわがままのためにいのちを奪ってはいけないんだ。

「生命を見よう」　３－（３）自然や生命への畏敬

え？生命って見えるの？

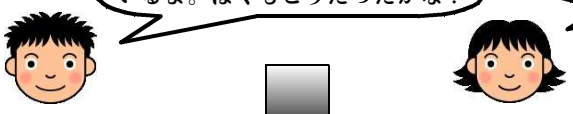
○「生命」に対する感性を高めるための道徳の時間

◎写真や絵・言葉のなかに，生き生きした生命や生命のつながりを見つけさせることで，生命のすばらしさを感じ取らせる。

この木は，長い間生きてきて，こけや虫たちのいのちを育ててきたんだね。とても力強く生きているよ。

安心している目だね。大切に育てられているんだね。赤ちゃんもいろんなものを見ようとして生き生きしているよ。ぼくもこうだったかな？

生命って見えるんだね。どんなものにも平等に一つだけあるんだね。支えたり支えられたりして生きているんだね。



「生命のかがやき」３－（２）生命尊重

○「生命のかがやき」を感じ，これからの自分のありかたを考えるための道徳の時間

◎「『命がかがやいている時』というのは人間のどのような姿の時をいうのか」について自分なりの考えをもたせることで，これからの一日一日を精一杯生きようとする心情を育てる。

3　授業の視点

板書を工夫したり，心のノートを有効に活用したりすることで，「『命がかがやいている時』というのは人間のどのような姿の時をいうのか」について自分なりの考えをもたせ，これからの一日一日を精一杯生きようとする心情を育てる授業を提案します。

4　学習過程

☆…評価の視点

	学習の流れ	教師のはたらきかけ
気づく／心をたがやす／高める	1　「自分が幸せだと感じる時」を発表し合う。 ○みんなは，どのようなときに幸せだと感じますか。	・「幸せ」の感じ方にもいろいろあることに気づかせる。 ・事前に，「わたしが幸せだと感じるときベスト３」のアンケートをとり，結果をグラフに表して提示することで，みんなの考えが把握できるようにする。
	2　資料を読み，佐江子さんが「自分は幸せだ」と言えるのはなぜかについて考え，話し合う。 ○手紙を読んで，佐江子さんのどのような気持ちが伝わってきましたか。 ・お母さんへの感謝の気持ち ・つらくて泣きたい気持ち ・友だちにも支えられているという気持ち ・病気に負けずに頑張ろうという気持ち ・希望をもっていること	・本時の「生命」の学習のテーマは「生命のかがやき」であることを知らせる。 ・佐江子さんについて簡単な紹介をし，手紙を書いた状況を把握させる。 ・手紙を渡した翌日亡くなったことを知らせてから，佐江子さんの気持ちを考えさせる。 ・佐江子さんの気持ち（お母さんに対して・友だちに対して・自分自身の）を整理して板書したり，場面の挿絵を活用したりすることで，佐江子さんが，お母さんや友だちに支えられて精一杯生きたことをとらえさせる。
	◎佐江子さんが，「自分は幸せだ」と言えるのはなぜだと思いますか。 ・つらくても一緒に頑張ってくれるお母さんや励ましてくれる友だちがいるから ・自分一人が苦しいんじゃないとわかったから ・つらいけど希望をもって頑張っているから	・まず，板書をもとに，「くやしい」「いやだった」「恥ずかしい」等の気持ちが「今のわたしはとっても幸せです」「こんなに幸せになりました」へと変化したことを確認し，その理由を考えさせるようにする。 ・「自分自身も，精一杯生きている」という気持ちに気づかない場合は，「誰も佐江子さんの代わりに生きることはできない」ことを助言し，自分自身が精一杯生きようとする気持ちも幸せだと言える理由の一つであることを理解させる。 ・自分が考えていた「幸せ」と比較させることで，「人との関わりの中で精一杯生きることが幸せ」という新たな視点をもたせる。 ☆「幸せだ」と言える理由に気づいたか。 【発表・話し合う時の態度・感想】
	3　「命がかがやいていている時」とは，どんな姿の時をいうのかについて自分の考えをもつ。 ○今までの自分を振り返って，「支えてもらうことで頑張ることができたこと」や「頑張って何かを乗り越えたこと」を発表し合いましょう。	・心のノートP64を読むことで，改めて「命をかがやかせる」とは，どのような姿の時なのかということを意識させる。 ・発表するときは，出来事だけでなく，その時の様子や気持ちもあわせて言うように助言する。 ・教師が，佐江子さんの生き方と発表とを関連づけることで，「生命がかがやいている時」とは，人間が精一杯生きている姿の時だということが実感できるようにする。
	4　自分のこれからの生き方ををを考える。 ○「命のかがやき」について学習した感想を書きましょう。 	・これからの自分の生き方について考えられるように　するために「年齢のものさし」を使う。 ・一日一日が生きることの積み重ねであり，これからもそうであることを助言してから，感想を書かせる。 ☆「命のかがやき」について自分の考えをもったり，これからの自分の生き方について考えたりすることができたか。【感想】